



本年もよろしくお願いいたします。
発電所員一同、一致団結し、より一層の
安全性向上に努めてまいります。

所長ご挨拶

あけましておめでとうございます。

当社東通原子力発電所は、地域の皆さまに支えていただき、励ましていただきながら、平成17年12月の営業運転開始から、昨年12月で8周年を迎えることができました。

こうした皆さまのご厚情にしっかり応えるためにも、当社は一日も早い再稼働を目指して、皆さまに安心していただけるように安全対策を積み重ねるとともに、敷地内の断層に関する調査を進め、「活断層ではない」という当社の主張を補強するデータを積み上げてまいりました。

こうした成果を踏まえ、今年は世界最高水準の安全レベルを目指した新規規制基準に対する適合性審査を受けるべく、準備が整い次第、申請を行うこととしております。

今後も、地域の皆さまから親しまれ、信頼される発電所を目指して、発電所で働く者全ての力を合わせ、智恵を出し合って、様々な課題に取り組んでまいります。

昨年同様、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまの益々のご健勝をお祈り申し上げます。



東通原子力発電所長
佐藤 敏秀

新年を迎え、新たな気持ちで安全祈願祭を実施しました

東通原子力発電所では、平成26年1月8日、田名部神社において安全祈願祭を実施しました。

今年は、当発電所構内の協力会社も参加し、1年の安全や無災害を誓いました。

今後も、当発電所構内の協力会社と一丸となって、安全最優先で業務に取り組んでまいります。



原子力規制委員会の調査団が、発電所敷地内断層の調査を実施しました

原子力規制委員会の「東通原子力発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合」メンバーは、平成25年12月12日、4回目となる当発電所敷地内断層の現地調査を行いました。

当社は、これまでの追加地質調査で得られたデータの整理および敷地内断層の活動性の有無に関する総合的な評価を鋭意進めており、平成26年1月に原子力規制委員会へ報告書を提出することとしております。

原子力規制委員会には、当社が取りまとめる報告書の内容を確認いただき、これまでの審査に携わった学識経験者の意見も聞いていただくと、科学的データに基づいた幅広い議論を行っていただきたいと考えております。



下北半島東部地質構造調査結果の概要について

当社および日本原燃株式会社、東京電力株式会社、リサイクル燃料貯蔵株式会社は、平成24年11月より、下北半島東部の地質構造に関する調査を共同で実施してきましたが、平成25年12月17日、調査結果およびそれに基づく現時点における事業者の評価を取りまとめました。

事業者の評価については、引き続き有識者から構成される第三者委員会より、客観的な立場から幅広くご指導・ご助言をいただきながら、取りまとめを実施してまいります。

調査結果を踏まえた現時点における事業者評価

- 大陸棚外縁の深部地質構造が明らかになり、大陸棚外縁断層は「将来活動する可能性のある断層等」ではないという評価も含めて、これまでの事業者の耐震設計上の評価が変わるものではないことを確認
- 大陸棚上および大陸棚外縁の急斜面の地質は、新第三紀中新世(約2,300～500万年前)に堆積した地層であり、これまでの事業者の地質構造解釈と整合することを確認

